

心に寄り添うたっぷりの愛情と 温かい見守りをありがとう!



祝二十歳!
荒尾地区出身
ますなが みやび
増永 雅さん
まきこ
母・真紀子さん

持ち前の根気強さで 理想の医療人を目指す

現在は、保健科学大学に通う雅さん。コロナという世界的な混乱の中で、家族と話し合いを重ね、「どんなに機械が発達しても、医療の現場には人が必要だから」と文系から理系への路線変更を決意すると、持ち前の根気と努力で乗り越え、臨床検査技師になるべく、国家資格

取得に向けてまい進中です。「実は血を見るのが苦手だった」という雅さんですが、2年間の大学生活ですっかり平気になってしまったとか。今は3年生から始まる3カ月間の臨地実習に向けて意気込んでいる最中です。

幼少期の 雅さん



他にも、年少の頃に通った親子料理教室を機に、マイ包丁を買って以来、コソコソと料理を続け、高校から今までお弁当作りを続けているという雅さん。たくさんの仲間にも恵まれ、勉強やアルバイトの忙しい合間を縫って、文化祭の実行委員も務めています。「みんなを引っ張っていくよりも、みんなが気持ちよく参加できるようにサポートして行くポジションが好き」と話す雅さんの表情からは、充実した学生生活がかがえます。4年間の大学生活もちょうど折り返し地点。努力と行動力、そして決断力を身につけた先に、どんな飛躍が待っているのか。ますます素敵な大人になっていく雅さんの将来が楽しみです。

お父さんからのメッセージ

“やる気”は、小さい頃から備わっていた雅。誰でも仲良くなれる人間に育ってくれてうれしいです。これからは大人としての決断力を培うために、たくさん経験を積んでください。社会人の先輩として、父として、困った時はいつでも相談に乗ります。



友人みんな
国家試験合格を
目指します!

大切な思い出



エポック荒尾の託児に行くのが楽しみで、いろんなお友達と遊べました。



荒尾第一幼稚園に通ってました。たくさん土遊びしました。

芯の強さを持つ 心やさしい頑張り屋

「おとなしいけど、できないことがあると悔しくて泣く、という負けず嫌いな一面もあったよ」と顔を合わせると微笑むのは、増永さん親子。3歳の頃、自ら「習いたい」と始めたピアノは、高校卒業まで続けました。小学4年生頃から、ステージに立つ時の独特の緊張感が好きだったそうです。学校の式典などでピアノの伴奏が必要となれば、いつも雅さんの出番。「ピアノだけは誰にも譲らない」という気持ちでいました」と照れながら話すまっすくな瞳が印象的でした。高校3年生の時のコンクールは、これまでの集大成を披露。「行き帰りの車の中でお弁当を食べ、夜遅くまで練習していたよ」と、雅さんの姿を誰よりも側で支えてきた母の真紀子さんは話します。一人っ子の雅さんとは親友のように仲が良く、いつでも寄り添う存在です。